

活動テーマ

皆野町日野沢地区及び、金沢地区の魅力再発見
～ポストコロナ時代における地域づくり検討～

皆野町日野沢地区・金沢地区 十文字学園女子大学

1 活動目的

第一の目的は、地域行事への積極的な参加、協力をを行い、自然・文化・社会的資源を再発見、再創造することである。地域には伝統的な行事や豊かな自然が広がっている。それらを支援隊員が肌身で感じる。人がどのように関わって地域が作られてきたのか、地域の自然や伝統はどうやって受け継がれていくのか。そうした事実を学び取る。その上さらに、次の世代へとつなげる知恵や技を再創造する。これらのことを総括し、地域再生の典型となる事例として本学のカリキュラムづくりに応用する。併せてポストコロナ時代における地域づくりの視点を考察する。

第二の目的は、この活動で得た学びを地域に還元することである。地域の自然を生かして行う農作物の収穫、自然・文化・社会的資源を外部に発信するために実現可能な地域支援の構想（リーフレットやマップ作製等）、開発途上にある新商品の商品化、新商品の販売方法の検討などを地域の方と交流をしながら行う。

第三の目的は、日野沢地区・金沢地区における地域支援活動のフォローアップである。先輩方が築いてきた成果を継承し、金沢地区では「たたらの里加工センター」で商品の作成・販売支援を行う。日野沢地区では、前皆野町町長、石木戸道也さんのもとで地域との関わり合いを深め、新たな中山間支援の在り方を検討する。

2 活動地域の現状

皆野町は秩父郡に位置しており、北に埼玉県の観光名所である長瀨町、南に埼玉県一の面積を持つ秩父市に挟まれている。自然に多く囲まれた自然豊かな地域である。面積は63.74㎢で、2022年4月現在での人口は9,319人である。

皆野町には、“美の山公園”、“高原牧場ポピー”、“秩父華厳の滝”、“親鼻橋SL”、“ハイキングロード”など自然を存分に生かした観光地が多くある。また毎年5月に萩神社にて開催される“つつじ祭り”や毎年3月下旬に行われている“カタクリ祭り”など自然にふれるイベント行事がある（令和2年から中止、今年度は開催）。有形文化財に登録されている出牛人形浄瑠璃や秩父音頭発祥の地として知られている。

3 活動内容

対象地域である日野沢地区の社会調査を行った。“不動滝”や“秩父華厳の滝”、“満願の湯”などの現地調査を実施した。各地域の歴史や文化、現状等について、石木戸道也さん（前皆野町長）、大澤金作さん（皆野町議会議長）にインタビューした。

日野沢地域での農作物の栽培について、石木戸道也さんからお話を伺った。農作業の体験として、蕎麦まきを行った。

石木戸道也さんのご自宅で、地元で捕獲した鹿の肉をご馳走になった。鳥獣害被害の対

策に関する実情とともに、狩猟によって捕獲した動物の活用方法について検討した。

日野沢地域を、秩父地域を訪れる来訪者向けに紹介する目的で“日野沢地区リーフレット（マップ）”を制作した。かつての対象地域であった埼玉県比企郡小川町腰越地区で制作した“腰上マップ”を基本に、地域の自然、文化、社会資源をシンプルに紹介する構成とした。制作した“日野沢マップ”は、対象地域に持参し、配架していただくよう依頼した。

“道の駅みなの”や町役場産業観光課、鹿の寝床（カフェ施設）には、訪問当日に趣旨を理解いただき、配架した。配架には至ってはいないものの、日野沢地区の“満願の湯”では、職員の方にサンプルを手渡し、責任者の方と後日相談する予定である。秩父鉄道皆野駅は駅員の方が不在で、長瀨駅の駅員の方にサンプルとして一部を手渡しし、後日改めて長瀨駅長と相談することとなった。長瀨町観光協会でも、同様に責任者の方が不在であり、サンプルを渡し、後日改めて相談することとなった。日野沢地区の窓口になってくださっている石木戸道也さんには、完成した日野沢マップを手渡し、今後の普及の方法について相談した。

金沢たたらの里加工センターでは、レギュラー商品である“もろこしまドレーヌ”、“もろこしまんじゅう”、“もろこしかりんとう”の製造過程を一から学んだ。職員の方たちから、センターの運営や製造した商品の流通等について、聞き取りを行った。お盆や正月などの繁忙期に当たって、地域から受注した商品を製造する過程を体験し、贈答用の箱づくりを体験した。

石木戸道也さんを通じて、大澤金作さんを紹介していただき、大澤さんが会長を務める猟友会の狩猟に同行取材することができた。会のメンバーの方たちとともに実際の狩猟を見学し、捕らえた鹿の解体作業を手伝った。メンバーの方から、この地域における鳥獣害被害の実態やその対策などについて、インタビューを行った。

支援隊の活動には、大学内で募集した学生が参加者となった。皆野町の行事である“ふれあい祭”においては、出店した金沢たたらの里加工センターのブースにおいて、商品の販売活動を経験した。鳥獣害対策の狩猟に参加した学生は、捕獲した鹿の解体作業にもかかわった。

4 成果

日野沢地区の石木戸道也さんを中心として、そのご家族との交流が深まった。石木戸さんは、長い間皆野町長を務め、町の行政や生活、文化などに関する豊富な情報を提供してくださった。石木戸さんからの紹介によって、町議会議長を務める大澤金作さんと交流をすることができた。大澤さんは、地域の猟友会の会長をつとめ、鳥獣害被害の対策にも中心的に関わっている。その関わりから狩猟の体験をすることができた。実際の体験を通して、中山間地域における暮らしの中での困難さや豊かさを学んだ。石木戸さんの導きによって、秩父地域にありながらもなかなか外部からの来訪者が増えない日野沢地域へと関心をもってもらう方法を検討し、マップづくりに着手した。参考にしたのは、かつての支援隊員が関わった埼玉県比企郡小川町腰越地区での活動である。この取り組みで制作された“腰上マップ”を参考に、皆野町日野沢地区バージョンを制作した。完成したマップは、皆野町役場、鹿の寝床、道の駅みなのに配架した。その他、満願の湯や秩父鉄道皆野駅、長瀨駅、長瀨町観光協会等で、普及活動を行った。

石木戸さんとの関わりから、農作業を体験する機会を得た。中山間地の農業として、蕎麦の播種を行った。

金沢地区においては、たたらの里加工センターでの日常的な製造過程を経験した。地域

の方たちが維持し、継続してきた加工センターの歴史や運営の過程を学んだ。センターが出店したつつじ祭りには、支援隊の卒業生が参加し、旧交を深めた。皆野町“ふれあい祭”においては、センターで製造された商品が地域の人びとの手に渡っていく現場に立ち会った。ものづくりとそれを受け入れ、支える地域の方たちの声を聴くことができた。

5 課題

予想もしなかった事態が生じて、活動がうまくいかないことがあった。特に、金沢地区において、新商品開発を継続してきたこともあって、ここでの活動を中心にする予定であったが、平成18年から営業するセンターの施設の老朽化が著しく、空調施設の故障が大きなダメージとなった。センターの主力商品は、マドレーヌやかりんとう、まんじゅうである。これらは、どれも電気オーブンやガスコンロ、ガススチーマー等の発熱を伴う調理器具を使用しなければつくることができない。標高も高く、比較的涼しい秩父地域にあっても、センターの調理場は、相当な高温となる。やむなく、比較的涼しい時期を選んで、レギュラー商品の製造や販売を経験することとなった。施設は、かつてJAが所有し、支所として活用してきたとのことであり、その物件を活用したセンターの取り組みであり、さまざまな機器等に更新の時期が迫っている。こうした課題にどう対応するかが今後大きな壁になる。

秩父鉄道や有料道路を利用して来訪する外来者に対して、この地域の魅力をどのように伝えるかがなかなか難しいところである。制作したマップは、来訪者が立ち寄る場所に配架することができたが、しかし、それを実際に手に取って、この地域を訪ねたいと思うかどうかの検証が必要である。実際にどの程度の来訪者がこのマップによって導かれたのかを検証する方法については、手付かずであった。マップの普及に関しては、秩父鉄道の営業部を紹介していただくなど、秩父鉄道職員の方との交流が必要である。特に、無人駅の多い地方鉄道にあって、そうした鉄道駅の活性化ということも今後の課題である。

猟友会の活動は、秋から春にかけての時期であり、その活動には、危険が伴うために、調査にも自ら限界があった。参加する学生も2名と限られたものであった。わな猟など、比較的安全な猟については、情報を得るにとどまった。今後、そうした取り組みを検討することによって、参加しやすい狩猟体験会を検討する必要がある。

前皆野町長の石木戸道也さんの特別なご厚意で日野沢地区での活動が成り立っている。地域調査や農作業体験、狩猟体験など、これまでの支援隊とは質の異なる内容である。紹介していただいた大澤金作さんをはじめ、猟友会の方たちとの交流がその場限りのイベントにならないような工夫が必要である。

6 次年度以降の計画

これまでの活動を踏まえて、金沢地区におけるアジサイ園やかたくりの里、四方田忠則さんを中心とする干し芋づくりなど、今後も関わり続けるとともに、特にアジサイ園は、今年度当初に鹿の食害に遭っており、その対策などについて検討していきたい。金沢たたら里加工センターにおいて、施設の老朽化や更新時期を迎えた機器のことなど、さらに検討が必要なことが山積している。関わり合いを深めつつ、今後の取り組みを検討したい。

日野沢地域においては、鍵となる石木戸道也さんとの関わりをさらに深め、地域資源の発掘や再認識、創造につとめていきたい。特に、鳥獣害への対策に関しては、他地域の支援隊からも課題認識があるとのことだったので、そうした実情を知るところからスタートしたい。

秩父地域を訪ねてくる来訪者への関わり合いについて、制作したマップの活用をはかり、同時に、利用者の声に耳を傾ける活動を検討したい。特に、高齢者層のハイキングが盛んであり、狩猟体験の際には、それが制約となっているという実情を伺った。観光と生活との両立というテーマがさらに浮かび上がってきている。今後の検討事項としたい。



日野沢地区
石木戸道也
さんの農場
にて蕎麦ま
き体験



皆野町ふれ
あい祭にて
商品販売の
お手伝い—
金沢地区加
工センター



日野沢地区
石木戸道也
さん宅にて
打ち合わせ
会



日野沢地区
猟友会の方
たちと交流
—鳥獣害被
害の対策



金沢地区
加工セン
ターにて
製造体験